

チェロ奏でる医師

鹿児島大医学部准教授の時村洋さん(54)はチェロ奏者の顔も持つ。患者の癒やしの一助になれば、との思いで約20年前から勤務先の病院でほかの職員と一緒にクリスマスコンサートを開いている。

所属する脳神経外科の学会には約80人でつくるオーケストラがある。3歳から母にピアノを習うなど、音楽一家で育った時村さんは1987年



音楽で患者の心癒やす

の結成時からのメンバーだ。演奏する場合は年2回の学会の開会式で、3年前はチャリティコンサートとして開催。収益金は脳腫瘍の子供を支援する団体に寄付した。

手術や研究などで忙しく、団員が合同で練習する機会は限られているものの「手術に必要な判断力と、音楽の演奏は右脳を使う点で同じ。大きなミスはない」と胸を張る。

楽団は6月、ドイツ・ライプツヒでの「日独合同脳神経外科会議」で初の海外公演を果たした。モーツアルトの交響曲26番など4曲を披露すると、耳の肥えた同国の医師から絶賛された。「多くの医師との交流は脳神経外科のレベルアップにつながるはず」と、今後音楽を通じた付き合いを広げていくつもりだ。